令和5年度過疎地域持続的発展優良事例表彰 受賞団体一覧

総務大臣賞

一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会
宮城県丸森町

山古志住民会議／ネオ山古志村(山古志DAO)
新潟県長岡市

朝日町MaaS 実証実験推進協議会
富山県朝日町

全国過疎地域連盟会長賞

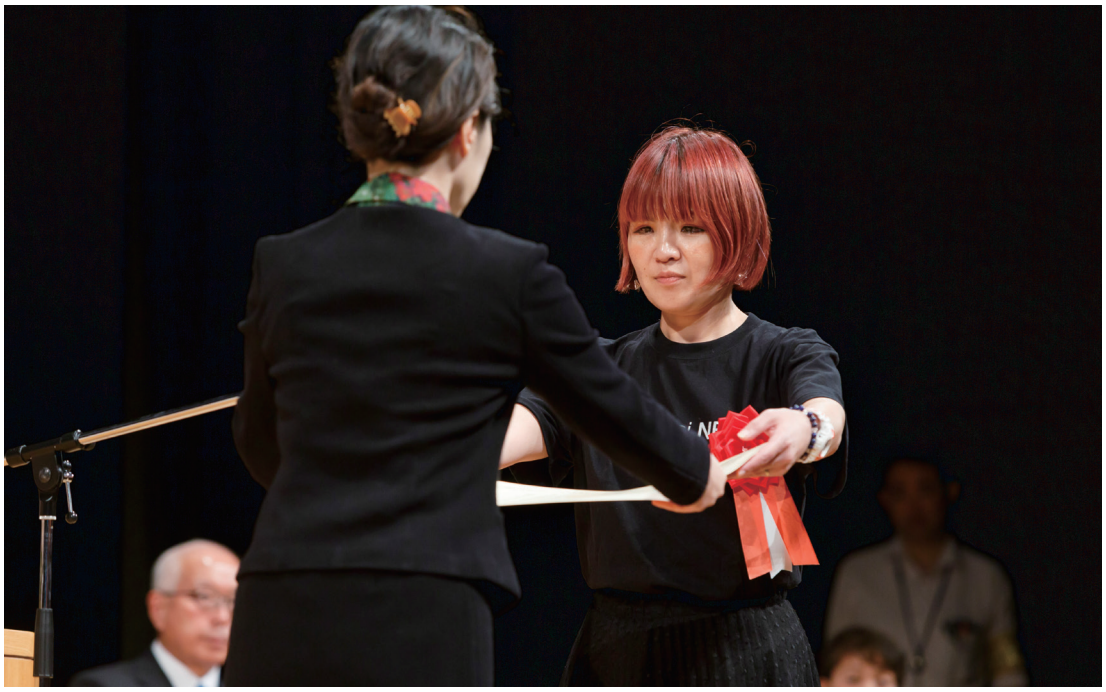
株式会社ホップジャパン
福島県田村市

昭和村
福島県昭和村

論田自治会 及び 熊無自治会、ろんくま移住促進委員会
富山県氷見市

特定非営利活動法人 本と温泉
兵庫県豊岡市

家賀再生プロジェクト
徳島県つるぎ町



全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま
【全国過疎地域連盟会長賞】
論田自治会 及び
遠藤 雄幸
山越 伸子

優良事例受賞団体 講評

宮口　侗迪　氏

過疎地域持続的発展優良事例表彰委員会委員長／早稲田大学名誉教授

1946年富山県富山市（旧細入村）生まれ。
東京大学地理学科同大学院博士課程にて社会地理学を専攻し早稲田大学に勤務、1985年教授、その後教育・総合科学学術院長を歴任。2017年名誉教授。国土審議会専門委員、大学設置審議会専門委員、自治大学校講師、富山県景観審議会会長、富山市都市計画審議会会長を歴任、2021年3月まで総務省過疎問題懇談会座長として、新しい過疎法の制定に尽力、地方の発展のあり方について発言を続ける。1985年から富山市在住。『過疎に打ち克つ一先進的な少数社会をめざして一』（原書房）ほか著書多数。

皆さんこんにちは。ようこそ、全国過疎問題シンポジウムへいらっしゃいました。表彰委員会の委員長を仰せつかっております早稲田大学の宮口でございます。本日お手持ちの優良事例表彰の冊子に私の講評も出ておりますので、それに沿って所見を申し上げさせていただきます。

例年のように本年度も各県から推薦された表彰候補団体の中からさらに候補を絞り、各委員の視察を経て委員会で協議し、総務大臣表彰3団体、過疎地域連盟会長賞5団体を選定させていただきました。

北から順番に紹介しますと、総務大臣表彰は、まず宮城県丸森町の「一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会」です。この協議会は地区の住民全員参加の集まりで、町から交流センターの指定管理を受けたのを契機に一般社団法人に移行し、大震災を乗り越えながら、雑貨店や移動販売、ガソリンスタンドの運営、広報誌の発信を行い、最近では太陽光発電の会社を設立されました。1億数千万という予算規模を実現し、一つの町の小さな地区としては大変総合的な力をつけられたとともに、地区が総合的な活力を育て得ることを示されました。

続いて新潟県長岡市の「山古志住民会議/ネオ山古志村（山古志DAO）」です。山古志村は中越地震で壊滅的な被害を受けられましたが、長岡市に合併されて以降、山古志DAOというコミュニティを形成し、電子住民票の機能を持つNFTを発行され、800人弱の村に1000人を超えるデジタル村民を作られました。デジタル村民は海外にもいらっしゃり、その人たちが村に来ることを帰省と呼び、それが移住に繋がり、関係人口が濃い集まりを作られました。これは過疎地域のお手本になるのではないかと思います。

そして富山県朝日町の「朝日町MaaS実証実験推進協議会」です。
MaaSというのは「Mobility as a Service」の略で、わが国で初めてタクシーやバス会社と協力した住民輸送システム、これはバスもあまり通っていない、バス停から遠いところに住む人たちをどうやって運ぶかということですが、予約をタクシー会社が受け、バスの回数券で支払うという仕組みです。関係者を巻き込んで、非常に合理的にすみ分けを行っておられ、他にも普及していると聞いています。

過疎連盟会長賞に移らせていただきますと、まず「福島県昭和村」です。豪雪地帯ではありますがカスミソウの産地であり、雪のない夏の間を活用してカスミソウの品質を向上させ、「会津のカスミソウ」というブランドを確立され、夏を中心に全国一位の出荷量を誇っておられます。インターンやIターンの人たちに対して、カスミソウのことを学んでもらう、子供たちにも小さいときから花のことを学んでもらうということで、20年間に36人の就業者をもたらされています。

次に福島県田村市の「株式会社ホップジャパン」です。こちらは東日本大震災で遊休施設となった場所でホップ栽培を復活させ、人を繋いで地元100%のクラフトビールを実現し、6次産業的に展開して、地域に大きな希望を生み出されています。

続いてご当地ですが、富山県氷見市では論田自治会と熊無自治会いう二つの地区が「ろんくま移住促進委員会」いうものを結成して活動しておられます。20年にわたって二つの自治会が連携している例というのもあまり全国にはないと思いますが、草餅などの特産

物の継承のほか、現在では移住促進委員会で移住促進計画を策定され、移住者を増やそうと頑張っておられます。

続いて兵庫県豊岡市の「特定非営利活動法人本と温泉」です。志賀直哉の小説で「城崎にて」という名作があるのですが、こちらは城崎温泉の旅館の二世の会が、志賀直哉が来訪して100年の記念に文学と歴史のまちを目指しこれから頑張ろうということで、城崎に関する文学作品を新しく出版して、地元でのみ販売するという活動をされています。すでに4冊出版されており、1万部売られたものもあります。旅館や土産物屋で販売されています。

そして最後に徳島県つるぎ町の「家賀再生プロジェクト」です。こちらは傾斜地農業で世界農業遺産に登録されています。しかし、過疎高齢化により将来が危ぶまれるということで、地域の外に住んでいる地域の関係者のグループによって藍栽培の復活や商品化が進められ、食べる藍というものを新しく作られるなど、地域の景観の継承に向けて、貴重な活動をしておられます。

このように今年度も多彩な活動が表彰されました。行政と民間による特産物の育成や、地域経済の活性化に加えて、デジタル村民や複数の地区の連携、外部グループの活動という新しい社会関係の育成というものが、ここから読み取れます。そういう点で小さく固まって独立性が強かった我が国の集落、地区というものに新しい風が吹いてきたように思います。

過疎化の中では人は減ります。過去のやり方だけではやっていけなくなりますので、新しい風にどんどん吹いていただきたい。地域交通のあり方にも新しい流れが生じ、出版という文化的な活動も生まれました。そして震災後の新しい展開が3団体でありました。

皆さん頑張って非常に良い状態を作っておられる、そういった優良事例が今年もたくさん表彰されました。皆さんのさらなる発展を祈り、また、心からお祝いを申し上げ講評とさせていただきます。

なお、わたくし長年委員長を務めさせていただきましたが、今年度で退任させていただきますので、今年のパンフレットの最後には私の回想みたいなものも載っております。またご覧いただければ幸いです。

それでは改めて申し上げます。表彰地域の皆さんおめでとうございました。講評を終わります。ありがとうございました。